1. 調査報告概要表

全体を通して（特に良いと思われる点）
四葉のクローバーの四枚の葉に「健康、愛情、幸福、希望」というホームの理念を明示し、それぞれに思いを込めて施設長を中心に「ご本人が本当に望まれていることはなにか」ということを探りながら安心できる暮らし作りを目指しておられる。近所への散歩や、ホームで行われている体操などは、利用者にとっても楽しみな日課になっており、スーパーなどへの買い物も車で頻繁に出かけておられる。また、施設長は自治会の役員などをされており、地域の方々からの意見を聞き取りながら時間をかけてホームを理解していただけるよう取り組んでおられ、利用者と一緒に地震時の訓練を行ったり、災害時には近所の方とも協力できるような体制作りもされている。このようなことからも、今後、利用者、ご家族、地域、職員の「安全、安心」に向けた取り組みがさらに期待できるグループホームである。

分野	特記事項（特に改善を要すると思われる点）
Ⅰ 運営理念	理念は十分説明されているが、各ユニットごとに掲示されている理念は高い位置の掲示になっており見えにくい。利用者やご家族などの来訪者にも見やすい掲示の方法を検討してみてほしい。
Ⅱ 生活空間づくり	広々した共用空間にしては物品が少なく、殺風景さを感じた。利用者年代の方が落ち着いて過ごすことのできる雰囲気作りについても職員で話し合い利用者の希望なども聞きながらしつらえの工夫を重ねていってほしい。　身体機能の低下がみられる利用者の自立に向けた暮らしを支援するという観点から一人ひとりの身体機能の状態を仔細に点検し、不安や不自由は生じていないか確認してみてほしい。
Ⅲ ケアサービス	日々の業務の忙しさのあまり利用者の暮らしが職員のペースになりがちであった。この機会に一人ひとりのこれまでの生活習慣や本来のペースなどについて話し合ったりご家族に聞き取るなど、1歩進めて取り組んでみてほしい。　のんびりしたホームの雰囲気の中で、職員の声の大きさなどが気になった。利用者が落ち着ける生活を支援するという観点から、職員のさらなる穏やかな態度が求められる。　職員も利用者と一緒に食事をされているがおしゃべりも少なく、利用者はもくもくと食べておられた。食事を楽しめるような雰囲気作りについてホーム全体で意見を出し合い検討されたい。
Ⅳ 運営体制	事故報告書を作成し職員で話し合っているが、事故再発防止に向け活かすまでに至っていない。事故発生までの経緯などについても時間をかけて話し合ってほしい。　ご家族の訪問時には、外出の様子や体調などを伝えているが定期的な情報提供までに至っていない。ご家族が求めている情報を定期的に提供できるような方策が求められる。

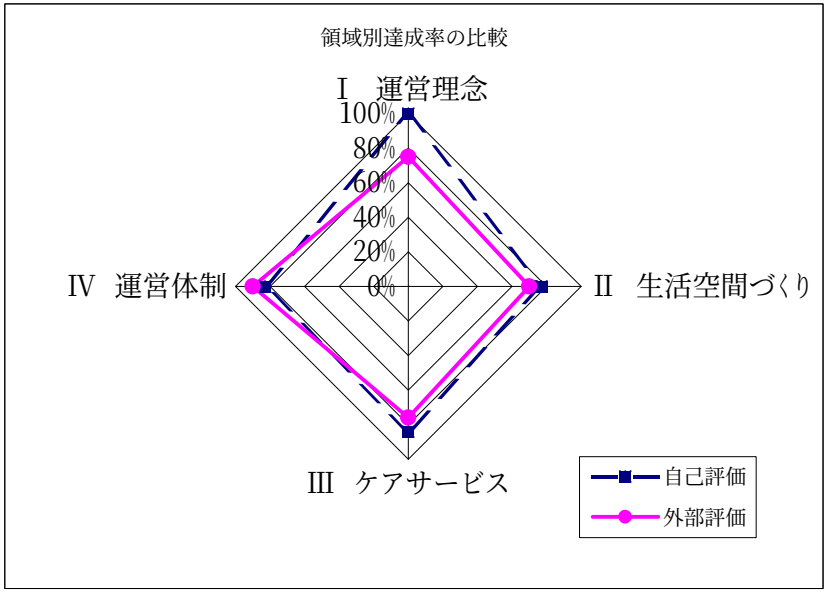
分野・領域		項目数	「できている」項目数
Ⅰ 運営理念			
	① 運営理念	4項目	3
Ⅱ 生活空間づくり			
	② 家庭的な生活環境づくり	4項目	3
	③ 心身の状態に合わせた生活空間づくり	6項目	4
Ⅲ ケアサービス			
	④ ケアマネジメント	7項目	7
	⑤ 介護の基本の実行	8項目	2
	⑥ 日常生活行為の支援	10項目	8
	⑦ 生活支援	2項目	2
	⑧ 医療・健康支援	9項目	8
	⑨ 地域生活	1項目	1
	⑩ 家族との交流支援	1項目	1
Ⅳ 運営体制			
	⑪ 内部の運営体制	11項目	10
	⑫ 情報・相談・苦情	2項目	2
	⑬ ホームと家族との交流	3項目	2
	⑭ ホームと地域との交流	4項目	4

自己評価作成日	平成17年3月25日
訪問調査日	平成17年6月1日
評価結果確定日	平成17年7月20日

自己評価･外部評価の達成率の比較

分野･領域	自己評価結果	
	項目数	達成率
Ⅰ　運営理念	5	100%
Ⅱ　生活空間づくり	13	77%
Ⅲ　ケアサービス	77	84%
Ⅳ　運営体制	40	83%
合計	135	83%

分野･領域	外部評価結果	
	項目数	達成率
Ⅰ　運営理念	4	75%
Ⅱ　生活空間づくり	10	70%
Ⅲ　ケアサービス	38	76%
Ⅳ　運営体制	20	90%
合計	72	79%



レーダーチャート･表の見方

＊自己評価結果･･自己評価作成は、各ユニット毎に行ないます。 その結果、ホームで「できている」と回答した数を集計し一事業所での達成率として表しています。
＊外部評価結果･･外部評価は、ユニットすべてを調査しますが、評価結果は、事業所単位で表しています。
＊自己評価･外部評価の達成率の比較･･自己評価が外部評価の達成率に比べて低くなっている場合があります。これは事業者自ら提供しているサービスに対し「まだ十分でない」「もっと改善の余地があるのではないか」という質の向上に向けた取り組みの姿勢と捉えることができます。

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項　　目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		Ⅰ　運営理念　　1. 運営理念の明確化					
1	1	○理念の具体化及び運営理念の共有 管理者は、認知症高齢者グループホーム（以下「グループホーム」という。）に関わる法令の意義を理解しており、これを自らが所属するグループホーム（以下「ホーム」という。）の運営上の方針や目標等に具体化し、介護従業者に日常的に話している。	○			施設長は、スタッフミーティング時や毎日の申し送り時などに運営上の方針や目標などを職員に伝えている。	
2	3	○運営理念の明示 ホームの運営理念を利用案内時の説明文書及びホームの見やすいところに明示し、かつ、利用者及びその家族や代理人等（以下「家族等」という。）に分かりやすく説明している。		○		理念はパンフレットや重要事項説明書などに明記されており利用案内時に説明しているが、各ユニット高い位置に掲示されており見にくい。	さらに、グループホームの理念を利用者、ご家族、来訪者などだれでも見られるよう、どういうことを目指しているところなのかということを積極的にアピールしていってほしい。
3	4	○権利･義務の明示 利用者の権利･義務を利用案内時の説明文書及び契約書に分かりやすく示し、かつ、利用者及びその家族等に説明し同意を得ている。	○			契約書に明記されており、利用者やご家族などにゆっくりと説明されている。	なお、利用者の権利については、当該ホームの中でご本人がどのように暮らせるか、利用者の暮らしの中での権利の具体像を職員一同でまとめられ常に共有し伝えていくことを目標として期待したい。
		2. 運営理念の啓発					
4	5	○運営理念の啓発 ホームの運営理念や役割が地域に理解されるよう、地域に対する運営理念の啓発･広報に取り組んでいる。（ホームの説明会、ホーム便り等）	○			ホーム開設時には、グループホームの説明会を何度も開催し地域に理解されるよう取り組まれた。	
		①運営理念　4項目中　　計	3	1	0		
		Ⅱ　生活空間づくり　　1. 家庭的な生活空間づくり					
5	6	○気軽に入れる玄関まわり等の配慮 違和感や威圧感を感じさせず、利用者や家族が入りやすく、近隣の住民も訪ねやすいよう、玄関まわりや建物の周囲に、家庭的な雰囲気づくりの配慮をしている。（玄関まわりに草花を植える、親しみやすい表札をかける等）	○			近隣の雰囲気に合った建物になっており、表札はホームに馴染むよう配慮されている。玄関先にベンチが設置され手入れされた季節の草花があり親しみやすく家庭的な雰囲気であった。また、ホームは耐震構造になっており地震時にも安心できる設計になっている。	
6	7	○家庭的な共用空間づくり 共用の生活空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、いずれも家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的である。		○		共用空間は広々しており整っているが、物品が少なく殺風景さを感じた。	この機会に、利用者世代の家庭的な共用空間作りについて利用者とお話したり職員間で話し合われたい。
7	8	○共用空間における居場所の確保 共用空間の中に、利用者が一人になったり気のあった利用者同士で自由に過ごせるような居場所を確保している。	○			共用空間には、テーブル席やソファー、また廊下の突きあたりに喫煙場所なども確保されており一人になったり数人で過ごすことができるようになっている。	

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
8	9	○利用者一人ひとりにあわせた居室の環境づくり 居室には、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が持ち込まれ、安心して過ごせる場所となっている。	○			畳と床の部屋があり選ぶことができるようになっている。居室には、趣味のものや写真、小物が持ち込まれており安心して過ごせる場所になっている。	さらに、利用者一人ひとりのこれまでの暮らしを継続できるような居室のしつらえについても利用者とも相談しながら工夫を重ねていってほしい。
②家庭的な生活環境づくり 4項目中 計			3	1	0		
		2. 心身の状態にあわせた生活空間づくり					
9	11	○身体機能の低下を補う配慮 利用者の身体機能の低下にあわせて、安全かつできるだけ自立した生活を送れるようにするための設備や工夫がある。（すべり止めや要所への手すり等の設置、浴槽・便座・流し台等の使い勝手の工夫、物干し等の高さの調節等）		○		身体機能の低下がみられる利用者が安全で自立した生活を送ることができているか、この機会に一人ひとりの状態を仔細に点検し、不安や不自由は生じていないか確認してみてほしい。	物忘れが進む認知症の症状を考えると普通の設備があることやご自身の力を使って動いたり、使える設備や備品が求められる。また物品の配置などの工夫なども検討されたい。
10	13	○場所間違い等の防止策 職員は、利用者一人ひとりがホーム内の場所が分かるかを把握しており、家庭的な雰囲気をこわさずに、場所の間違いや分からないことでの混乱を防ぐための工夫をこらしている。（トイレや部屋の目印等）	○			居室の入り口に好みののれんや表札、写真などをかけ場所間違いが起こらないように配慮されている。	さらに、トイレの場所を間違われる方もおられるようだが家庭的な雰囲気をこわさないような目印についても工夫されたい。
11	14	○音の大きさや光の強さに対する配慮 利用者が落ち着いて暮らせるように、音の大きさや光の強さに配慮している。（テレビ、職員の会話のトーン、照明の強度、まぶしさ、日射し等）		○		自然の明るさが心地よく落ち着く雰囲気の中で、職員の声の大きさなどが気になった。	職員で同士で会話のトーンについて点検されてほしい。利用者の落ち着いた暮らしを支援していくためにも積極的に取り組んでいってほしい。
12	15	○換気・空調の配慮 気になる臭いや空気のよどみがないように、換気を適宜行っている。また、冷暖房の温度調節は、冷やし過ぎや暖め過ぎがないように適切に行っている。	○			換気を十分に行っている。温度計、湿度計が数ヶ所に設置してあり、職員が適切に管理している。	
13	17	○時の見当識への配慮 見やすく、馴染みやすい時計や暦を、目につくところに設置している。	○			大きな時計と見やすい日めくり暦やカレンダーなどが見やすい場所に設置されていた。利用者が、暦を見て「今日は水曜日よな」と確認されたり、テーブルの上には季節の花がふんだんに飾られており、雰囲気や言葉の中でも時の見当識への配慮がみられた。	
14	18	○活動意欲を触発する物品の用意 利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品を用意し、本人の経験や状況に応じて提供している。（ほうき、たらい、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品等）	○			マージャンや将棋など趣味の用具を提供している。	自己評価には要改善点とされていたが、ホーム自身の気付きが改善への最大の起点であるので、一人ひとりに合った興味が持てるような物品を提供していくことを重ねていってほしい。ご家族から聞き取ったりご本人とも相談されてはどうだろうか。
③心身の状態に合わせた生活空間づくり 6項目中 計			4	2	0		

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		Ⅲ ケアサービス 1. ケアマネジメント					
15	20	○個別具体的な介護計画 アセスメントに基づいて、利用者主体の目標を立て、利用者一人ひとりの特徴を踏まえた具体的な介護計画を作成している。	○			アセスメントに基づき、介護計画を作成している。	利用者との会話やご家族からも聞き取りするなど、さらにアセスメントを充実していってほしい。
16	21	○介護計画の職員間での共有 介護計画を、すべての職員の気づきや意見を採り入れて作っており、すべての職員が計画の内容を知ることができる仕組みを作っている。	○			スタッフミーティングで全ての職員の気付きを聞き担当者が作成している。ファイルされておりいつでも内容を確認できるような仕組みになっている。	
17	22	○介護計画への利用者･家族等の意見の反映 介護計画を、利用者や家族等とも相談しながら作成している。	○			ご本人と相談しながら介護計画を作成している。	ご本人の暮らしの中に介護がどうあったらよいか。家族などの声の大切さを説明し投げかけを繰り返しながら相談できる機会を作っていってほしい。
18	23	○介護計画の見直し 介護計画に実施期間を明示して、その期間が終了する際に見直しを行うことはもとより、状態変化に応じた随時の見直しを行っている。	○			定期的な見直しと状態変化に応じて随時の見直しを行っている。	利用者の希望や変化を仔細にキヤッチしながら、よりケアのガイドとしてずれのない計画を随時作成していくことが期待される。
19	24	○個別の記録 日々の介護や介護計画に反映させるため、利用者一人ひとりの特徴や変化を具体的に記録している。	○			個別に記録し、ファイルしている。	
20	25	○確実な申し送り･情報伝達 職員の申し送りや情報伝達を確実に行い、重要な点はすべての職員に伝わる仕組みを作っている。	○			口頭の申し送りと申し送りノートを活用し確認済みのサインをするなど確実に情報伝達ができる仕組みを作っている。	
21	26	○チームケアのための会議 チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、すべての職員で、定期的に（緊急案件がある場合にはその都度）会議を開催し、活発に意見交換を行って合意を図っている。	○			ユニットごとに月2回のスタッフミーティングを開催し課題の解決のために活発な意見交換を行っている。	ミーティングの目的のひとつは、職員が一丸となってケアに取り組んでいくために、お互いの情報や気付き考え方を率直に出し合い対話し合える機会を定期的に作りチームを育てていくためでもあり、このような機会を十分活かしてほしい。
④ケアマネジメント 7項目中 計			7	0	0		

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		2. ホーム内でのくらしの支援(1)介護の基本の実行					
22	27	○利用者一人ひとりの尊重 職員は、常に利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応を行っていない。(利用者一人ひとりの違いの尊重、さりげない介助、プライベートな場所での礼儀、本人の返答能力に応じた質問方法、本人が思っている「現実」を否定しない等)		○		職員は、利用者本位の暮らしができるよう努めておられるが一人ひとりの人格を尊重しながらのさりげない介助に至っていない。	その人にとっての尊重を守るための職員のあり方をこの機会に確認し、一人ひとりのその人らしさを支援していってほしい。プライベートな場所での対応についても話し合ってみてはどうだろうか。
23	28	○職員の穏やかな態度 職員の言葉かけや態度はゆったりしており、やさしい雰囲気で接している。		○		職員は、明るい雰囲気作りに心がけておられるが時として声の大きさやスピード、トーンに気になる場面があった。	「ゆっくり」「ゆったり」とした態度の大切さについて職員で話し合ってほしい。利用者の安定した生活を支援するためにも積極的に取り組んでいってほしい。
24	30	○利用者一人ひとりの過去の経験を活かしたケア 利用者一人ひとりの生まれてからこれまでの生活歴、本人にとって大切な経験や出来事を知り、その人らしい暮らしや尊厳を支えるためにそれを活かしている。	○			利用者の生活歴を把握しており生活に活かせるように努めている。	
25	32	○利用者のペースの尊重 職員は、職員側の決まりや都合で業務を進めていく態度ではなく、利用者が自由に自分のペースを保ちながら暮らせるように支えている。		○		日々の業務の忙しさのあまり利用者の暮らしが職員のペースになりがちである。	一人ひとりが本来もっているペースや望んでいるペースについて再確認し、柔軟に対応できるよう取り組まれたい。
26	33	○利用者の自己決定や希望の表出への支援 職員は、利用者一人ひとりが自分で決めたり希望を表したりすることを大切にし、それらを促す取組を日常的に行っている。(選んでもらう場面を作る、選ぶのを待つ等)		○		利用者に「お茶飲まれませんか。」など声かけをされているが、ご本人が選んだり決めたりする機会が少ない。	着たい衣服、出かけたい場所、食べたいものなど希望を聞き出したり、「どちらにしますか」と選んでもらうなど利用者自らの意見や意志を表出する場面を意図的に作っていってほしい。ご本人の自信や活力のためにも積極的に取り組んでいってほしい。
27	35	○一人でできることへの配慮 自立支援を図るために、利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)		○		職員は気配りやさしさのあまり手や口を出してしまうことがある。	できること、できそうなことを見極めるためにも日々の暮らしの中で一人ひとりの力量の観察してみてほしい。その記録を基に介護計画に反映させていくことが望まれる。
28	37	○身体拘束のないケアの実践 身体拘束は行わないということをすべての職員が正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。		○		施設長は身体拘束について理解しておられるが、現場では安全を優先するあまり利用者の行動を制限してしまうことがある。	気付かないうちに利用者の行動を制限していることはないか。ご本人にとって意欲をそいだり混乱を招くことになっていないか。安全と制限の側面の中で利用者の立場に立って考えてみてほしい。
29	38	○鍵をかけない工夫 利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむような配慮をしている。やむを得ず鍵をかける場合は、その根拠が明白で、その理由を家族等に説明している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解･協力の促進等)	○			日中は玄関に施錠はされておらず自由な暮らしが保たれている。	この機会に、職員の行動や声かけなどについても利用者にとって威圧感になっていないか点検されてはどうだろうか。
⑤介護の基本の実行 8項目中 計			2	6	0		

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		(2) 日常生活行為の支援 1) 食事					
30	43	○馴染みの食器の使用 家庭的な食器を使っており、茶碗や湯呑み、箸等は、利用者一人ひとりが使い慣れたものにしている。	○			湯飲みや箸、小鉢など一人ひとりが好みのものを大切に使用されていた。	
31	44	○利用者一人ひとりにあわせた調理方法･盛り付けの工夫 利用者一人ひとりの咀嚼･嚥下等の身体機能や便秘･下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。	○			義歯の調整なども積極的に支援されており現在は皆さん同じ食事をされている。味付けも薄味でだしの風味もよく彩りよく盛り付けられていた。また体調不良時にはおかゆやおにぎりなどにも変更できるようになっている。	
32	45	○個別の栄養摂取状況の把握 利用者一人ひとりの摂取カロリーや水分摂取量、栄養バランスを、一日全体を通じておおよそ把握している。	○			現在は、食材業者の栄養士と協働され栄養摂取状況が把握されている。今秋からホームで食事作りをされるということで、今後の食事に関する一連の支援が期待される。	七分づきのお米を利用されたり、乳製品なども積極的に摂取されており健康に対しても気を配られている。
33	47	○食事を楽しむことのできる支援 職員も利用者と同じ食事を一緒に楽しんで食べながら、食べ方の混乱や食べこぼし等に対するサポートをさりげなく行っている。		○		職員も一緒に食事をされているがおしゃべりも少なく、利用者はもくもくと食べておられた。職員も一緒に食事を楽しめるような雰囲気作りの工夫を検討されたい。	食事を楽しむための工夫について、あいさつや配膳、下膳の方法なども考慮されたい。
		2) 排泄					
34	48	○排泄パターンに応じた個別の排泄支援 おむつをできる限り使用しないで済むように、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	○			個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた支援を行っている。	
35	50	○排泄時の不安や羞恥心等への配慮 排泄の誘導･介助や確認、失禁の対応は、不安や羞恥心、プライバシーに配慮して行っている。		○		排泄の声かけ、誘導や介助について、ご本人はもとより周囲への気配りにも配慮されたい。	排泄誘導などご本人のプライバシーに配慮し、声のかけ方や接し方など利用者の立場に立って考えてみてほしい。
		3) 入浴					
36	53	○利用者一人ひとりの希望にあわせた入浴支援 利用者一人ひとりの希望にあわせ、くつろいだ入浴ができるように支援している。(時間帯、長さ、回数等)	○			ご本人の希望に合わせて入浴を支援している。	さらに、その人に合った「くつろいだ入浴」を支援していってほしい。また、これまでの生活習慣をに合わせた入浴を支援していくことも期待される。
		4) 整容					
37	56	○理美容院の利用支援 利用者一人ひとりの希望にあわせて、理美容院の利用を支援している。(カット、パーマ、染め、セット等)	○			皆さんすっきりとした髪型にされている。ご本人やご家族とも相談され近所の理容店へ出かけられたりホーム内での散髪などとなっている。	

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
38	57	○プライドを大切にした整容の支援 整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしてさりげなくカバーしている。（髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等）	○			皆さんさっぱりされており、衣服も清潔にされている。	外出時に帽子をかぶるなどおしゃれされていた。
		5) 睡眠･休息					
39	60	○安眠の支援 利用者一人ひとりの睡眠のパターンを把握し、夜眠れない利用者には、1日の生活リズムづくりを通した安眠策を取っている。	○			ホーム利用前から眠剤をを服用されていた方が多いようであるが、医師とも相談され、日中の活動を通して安眠できるよう眠剤を減らしていくような取り組みを進められている。	
⑥日常生活行為の支援　10項目中　計			8	2	0		
		(3) 生活支援					
40	64	○金銭管理の支援 利用者が自分でお金を持つことの大切さを職員が分かっており、日常の金銭管理を本人が行えるよう、利用者一人ひとりの希望や力量に応じて支援している。	○			お金を管理されている方は数人おられるが、ご家族の希望もありホームでの管理の方が多い。	ご本人の希望や一人ひとりの力量を仔細に点検し、ご家族などとも相談しながら小銭程度でもお金にふれる機会を作っていってほしい。
		(4) ホーム内生活拡充支援					
41	66	○ホーム内の役割･楽しみごとの支援 ホーム内で利用者一人ひとりが楽しみごとや出番を見い出せるよう、場面づくり等の支援を行っている。（テレビ番組、週刊誌、園芸、食器洗い、掃除、洗濯物たたみ、小動物の世話、新聞取り等）	○			食器洗いや洗濯たたみ、テレビを見たりお好きなマンガを読んだりされている。	さらに、利用者同士の係りや男性ホーム内での役割など、職員で話し合い一人ひとりが輝く場面を意図的に作り出していってほしい。
⑦生活支援　2項目中　計			2	0	0		
		(5) 医療機関の受診等の支援					
42	68	○医療関係者への相談 心身の変化や異常発生時に、気軽に相談できる医療関係者を確保している。（医師、歯科医師、保健婦、看護婦等）	○			協力医療機関とも連携を図っており、隣接の医院とも協力体制ができている。24時間気軽に相談できるようになっている。	
43	73	○早期退院に向けた医療機関との連携 入院した場合、早期退院のための話しあいや協力を医療機関と行っている。	○			協力医療機関と連携を図りながら早期退院ができるよう支援している。	
44	74	○定期健康診断の支援 年に最低1回は、健康診断や医師の指導を受けられるように支援している。開設間もないホームは、健康診断を受けられる準備や体制を整えている。	○			協力医療機関と相談しながら、利用者や職員が健康診断を受けられる体制を整えている。	

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		(6) 心身の機能回復に向けた支援					
45	76	○身体機能の維持 認知症の人の身体面の機能低下の特徴（筋力低下、平衡感覚の悪化、嚥下機能の低下等）を理解し、買い物や散歩、調理、楽しみごと等の日常生活の中で自然に維持・向上するように取り組んでいる。	○			日に2回の散歩が日課になっており、体操の時間なども採り入れ、楽しみながら身体機能の維持向上に努めている。	
		(7) 利用者同士の交流支援					
46	78	○トラブルへの対応 職員は、利用者同士のけんかやトラブルの原因を把握し、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○			利用者同士のトラブルには職員が適切に対応しお互いのダメージにならないよう配慮している。	
		(8) 健康管理					
47	80	○口腔内の清潔保持 利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。（歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等）	○			朝夕の歯磨きを行っている。職員に歯科衛生師の方がおられアドバイスをするようになっている。	調査訪問時に歯磨きされる様子を伺うことができなかったが、お年寄りにとって口腔ケアの意味を職員が理解し本人の習慣や有する力を活かしながら毎食後にケアされることが望まれる。昼食後うがいだけでもすすめていってほしい。
48	83	○服薬の支援 職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量を承知しており、利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、症状の変化を確認している。	○			処方箋をファイルし見やすくまとめている。薬の副作用などはパソコンで検索できるようになっており職員がいつでも調べることができるようになっている。	
49	85	○緊急時の手当 利用者のけが等の緊急時に、職員は応急手当を行うことができる。（けが、骨折、発作、のど詰まり等）		○		数人の職員は応急手当を行うことができるが、すべての職員が対応できるようになることが望まれる。職員の力量アップのためにも救急救命法の講習を受講されたい。	消防署の協力を得て地震訓練なども実施している。救急救命法の講習についても協力していただいてはどうだろうか。実技を伴う講習を継続的に受講されたい。
50	86	○感染症対策 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA等）	○			感染症に対する対応を取り決め、マニュアルを作成し勉強会を開催している。またインフルエンザの予防接種などもされている。	
⑧医療・健康支援　9項目中　計			8	1	0		
		3. 利用者の地域での生活の支援					
51	90	○ホームに閉じこもらない生活の支援 利用者が、ホームの中だけで過ごさずに、積極的に近所に出かけて楽しめるような雰囲気を作っている。（買い物、散歩、近隣訪問、集会参加等）	○			日頃から積極的に散歩や買い物に出かけている。また日曜日は外食に出かけ楽しんでいる。	
⑨地域生活　1項目中　計			1	0	0		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		4. 利用者と家族との交流支援					
52	94	○家族の訪問支援 家族が気軽に訪問でき、訪問時は居心地よく過ごせるような雰囲気を作っている。（来やすい雰囲気、歓迎、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等）	○			ご家族などの訪問は頻繁にある。飲み物をお出しするなどホーム内で心地よく過ごしていただけるように配慮されている。	
		⑩家族との交流支援　1項目中　計	1	0	0		
		Ⅳ 運営体制 1. 事業の統合性					
53	96	○責任者の協働 法人代表者及び管理者は、ケアサービスの質の向上に熱意を持ち、それぞれの権限や責任をふまえて、共に取り組んでいる。	○			法人代表は、毎日ホームを訪れ職員と共にケアサービスの質の向上に向けて協働している。	法人代表も含め全職員で「利用者本位の暮らし」という観点からケアサービスの質の向上に向けての今後の取り組みについて話し合ってみてはどうだろうか。
54	97	○職員の意見の反映 介護従業者の採用、運営方法、利用者の受入れや入居継続の可否については、職員の意見を聞いている。	○			現場職員の意見が十分反映されている。	
55	101	○成年後見制度等の活用推進 利用（予定）者やその家族による、成年後見制度や地域福祉権利擁護事業の活用を推進している（制度概要等の説明、申立手続に関する専門機関や相談窓口の紹介等）。また、専門機関等は認知症高齢者の特性やグループホームをよく知っており、利用者や家族等並びにホームを支えていく協力体制が確保されている。	○			利用案内時に制度概要などが説明されている。今後も成年後見制度の活用と理解を深めていってほしい。	
		2. 職員の確保・育成					
56	102	○利用者の状態に応じた職員の確保 利用者の状態や生活の流れを支援するために、これに即した職員の勤務ローテーションを組んでいる。	○			利用者の状態に応じたローテーションが組まれている。	
57	104	○継続的な研修の受講 職員が、採用時、フォローアップ等それぞれの段階に応じた研修を受講し、その内容をすべての職員に周知している。	○			内部、外部研修を職員は積極的に受講できるようホームが支援している。	さらに、職員の力量アップのためにもグループホームネットワークによる研修や交流にも積極的に参加され、その内容を全ての職員で共有できるような仕組みを検討されてはどうだろうか。
58	106	○ストレスの解消策の実施 職員の業務上の悩みやストレスを解消する方策を採り入れている。（外部者と接する機会、職員相互の親睦、悩みの聴取、スーパーバイザーの導入等）	○			職員同士でのおしゃべりなどで楽しい時間を過ごすなど、職員同士の関係性は良好である。また施設長と個別に話をする時間を設けている。	利用者と一緒に休むことはできるが、時に少しの時間でもお年寄りと離れて一息入れる時間についても再検討されたい。3階の一室を休憩場所にと考えておられるが、この機会にぜひすすめてみてはどうだろうか。

2. 調査報告書

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		3. 入居時及び退居時の対応方針					
59	108	○利用者の決定のための検討 グループホームに適した入居対象者であるか、十分に検討している。（介護保険被保険者証、診断書、入居申請に至る経過、生活や対人関係、利用者・家族の希望等）	○			利用者やご家族などまた職員なども意見を聞き入居対象者であるか十分検討している。	
60	110	○退居の支援 退居は、契約に基づくとともにその決定過程が明確である。また、利用者や家族等に十分な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○			契約書にも明示され、ご本人ご家族などと十分話し合い納得のいく移行先の紹介、支援をしている。	
		4. 衛生・安全管理					
61	113	○ホーム内の衛生管理 ホーム内の清潔や衛生を保持している。（食品、布巾、包丁、まな板、冷蔵庫、洗濯機等）	○			ホーム内は衛生的できちんとされていた。	
62	115	○注意の必要な物品の保管・管理 薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については、保管場所、管理方法等を明確に取り決め、かつ、そのとおりに実行している。	○			注意の必要な物品については、目の届かないところや高い場所に収納されていた。	
63	117	○事故の報告書と活用 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態が発生した場合、事故報告をまとめており、サービスの改善につなげている。（再発防止の話しあい、今後に活かす意義づけ等）		○		事故報告書を作成し話し合っているが、事故再発防止に向け活かすまでに至っていない。	事故報告書の書き方や活用の方法などについて職員で話し合い再発防止に向けて話し合いサービスの改善につなげていってほしい。事故発生までの経緯についても詳しく記録されたい。
⑪内部の運営体制 11項目中 計			10	1	0		
		5. 情報の開示・提供					
64	119	○調査等の訪問に対する対応 介護相談員や評価調査員等の訪問時には、情報を積極的に提供している。	○			調査訪問時はこころよく迎えていただき、あいさつがとてもさわやかであった。積極的な情報提供があり、法人代表や職員は共にホームの質の向上に向けて改善していこうという熱意が感じられた。	
		6. 相談・苦情への対応					
65	120	○相談・苦情受付の明示 相談や苦情を受け入れるホーム側の窓口及び職員が明確であり、利用者及び家族等にその利用の仕方を文書と口頭で繰り返し伝えている。	○			苦情箱を設置していたが、利用されにくいためご家族などには口頭で意見や要望を出してもらっている。また重要事項説明書に明記し繰り返し伝えている。	今後、家族会を結成する予定とのことであるが、ご家族とも相談され積極的に取り組んでいかれることを期待している。
⑫情報・相談・苦情 2項目中 計			2	0	0		

項目番号 外部	項目番号 自己	項目	できている	要改善	評価不能	評価理由（優れている点や改善すべき点等、評価の根拠）	改善方策等
		7. ホームと家族との交流					
66	123	○家族の意見や要望を引き出す働きかけ 家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、面会時の声かけ、定期的連絡等を積極的に行っている。	○			ご家族の訪問は頻繁にあり、来訪時には声かけし意見や要望を出していただいている。	
67	124	○家族への日常の様子に関する情報提供 家族に、利用者の暮らしぶりや日常の様子を定期的、具体的に伝えている。（「たより」の発行や行事ビデオの上映、写真の送付等）		○		ご家族の来訪時には、外出の様子や体調などを伝えているが定期的な情報提供までに至っていない。	遠くにおられるご家族などにもご本人のことはもとよりホーム全体の様子が分かり楽しみになるような情報を定期的に提供できる仕組みを検討されたい。
68	127	○利用者の金銭管理 利用者が金銭の管理ができない場合には、その代替方法を家族等と相談の上定めており、家族に定期的にその出納を明らかにしている。	○			お小遣いや通帳をホームで管理されており、毎月出納帳のコピーを送付し報告している。	お金のことについてはご家族も聞きにくいことであるので、ご家族の安心のためにも金銭の管理状況は細やかに報告されることが望まれる。
		⑬ホームと家族との交流　3項目中　計	2	1	0		
		8. ホームと地域との交流					
69	128	○市町村との関わり 市町村との連絡を密にとり、家族介護教室等の市町村事業を積極的に受託している。	○			自治会の役員会に出席しホームについての意見などを聞くようにされている。また近所の病院を介して認知症ケアについての相談を受けるなど地域の認知症ケアの向上に向けて取り組まれている。	また、松山市の災害時協力企業情報構築事業に登録されており、災害時には地域の方がホームを活用できるようになるなど松山市と連携を図っている。
70	131	○地域の人達との交流の促進 地域の人達が、遊びに来たり立ち寄ってくれたりするように取り組んでいる。	○			近所の方とお付き合いのある利用者がおられ、時に遊びに来てくれる。散歩時もあいさつに心がけ地域の人達との関係性をゆっくり構築されている。また、水軍太鼓やみこしなどをホームに招いたり、回覧板などを通じて地域の方と交流に取り組んでいる。	
71	133	○周辺施設等の理解･協力への働きかけ 利用者の生活の安定や拡がりのために、周辺地域の諸施設から協力を得ることができるよう、理解を拡げる働きかけを行っている。（商店、福祉施設、警察、消防、文化教育施設等）	○			近所の公園を利用したり、日曜日には外食に出かけたりしている。また地震訓練などでは消防署の協力を得ており、利用者の生活の拡充のためにもホーム側から積極的に働きかけを行なっている。	
72	134	○ホーム機能の地域への還元 ホームの機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している。（認知症の理解や関わり方についての相談対応･教室の開催、家族･ボランティア等の見学･研修の受入れ等）	○			ホームの見学や研修などの受け入れ、説明会や認知症ケアの相談などホームの有用性を十分活かし地域に還元している。	
		⑭ホームと地域との交流　4項目中　計	4	0	0		

＊(1)「管理者」には、管理者不在の場合にこれを補佐する者を含む。
(2)「職員」には、管理者及び非常勤職員を含む。